

共同研究の目的と概要

1. 共同研究の背景と目的

当館における建築家・中村順平資料の収集・研究・展示の発端は、平成18年度に檜の会（代表：松本陽一氏）より寄贈されたことによる。これを受けて平成19年、当館では特集展示「生誕120年 大阪が生んだ偉才 建築家・中村順平」（5月30日～7月9日）を開催した。その後、青木榮氏、歌寄春子氏、大西春雄氏、木村弓子氏、松本陽一氏、吉原正氏ら、中村順平の教え子や関係者より個別に資料の寄贈を受け、まとまったコレクションが形成されてきた。当館ではさらに、平成24年に特集展示「中村順平 建築芸術の探究」（4月4日～5月28日）、同27年に特集展示「中村順平と建築芸術教育」（6月3日～8月3日）を開催した。

中村順平は日本人で初めてパリの美術学校エコール・デ・ボザール建築セクションに留学し、フランス政府公認建築士となったことで知られる。戦前には少なくとも21隻におよぶ豪華客船の船内装飾設計を手がけ、日本にボザール流の芸術面を重視した建築を普及させることに尽力したことなどから、日本近代建築史上重要な建築家の一人として扱われてきた。しかし、当館に寄贈された個々の資料は、いままで知られていなかった作品に関するスケッチや図面、中村の自筆ノート、原稿などが含まれており、多くの研究課題があることが改めて浮き彫りとなった。

こうした背景から、平成28年度「中村順平のスケッチブックと図面類の画題・作画時期解明に関する研究」では、不明なものが多かった「スケッチブック」の画題・作画時期の解明、当館所蔵図面類のうち横浜高等工業学校（現・横浜国立大学都市科学部）建築学科での教え子たちの製図課題提出作品の解明をおこなった。本研究では、横浜高等工業学校時代の原画と試験問題、ノート、ファイルブックの書類を対象にして調査研究し、中村順平資料における設計活動と建築教育に関する部分を解明することを目的とする。

2. 研究体制（平成29年度～令和2年度）

<外部研究員>

青木祐介氏（横浜開港資料館・横浜都市発展記念館）：横浜高等工業学校建築科大行進関連資料を担当

海老名熱実氏：船内装飾関連資料を担当

林要次氏：建築学ノート、試験問題等教育関係資料を担当

<大阪歴史博物館>

酒井一光（平成30年6月逝去）：建築設計案に関する資料、ヒアリング調査を担当

澤井浩一（平成30年度から）：研究推進事務等を担当

阿部文和（平成31年度から）：研究推進事務等を担当

3. 活動の概要

横浜高等工業学校時代の原画と試験問題、ノート、ファイルブックの書類を対象にした資料検討会を実施し、資料調査の進展をはかるとともに、中村順平資料の企画展示を東大阪市立郷土博物館で開催された酒野晶子氏のインタビューを実施した。

<資料検討会等の日程>

平成 29 年 11 月 1～2 日

平成 30 年 5 月 24 日（酒野晶子氏インタビュー）、11 月 28 日

令和元年 7 月 4 日、11 月 20 日

令和 2 年度には成果報告書（本書）作成を実施した。